

神楽フェスティバル & 中九州ジャンボかぼちゃ大会開催



熱演する波野子ども神楽（波野中）

10月3～4日、道の駅・波野「神楽苑」で第18回神楽フェスティバルが開催されました。2日間にわたり秋晴れに恵まれ、延べ3,000人の神楽ファンが詰め掛けたフェスティバルでは、地元の波野子ども神楽（波野小・波野中）、中江岩戸神楽保存会、横堀岩戸神楽保存会のほか、島根県や大分県の神楽団体計11団体が、神秘的で豪快な伝統の舞を披露し、多くの観客の拍手と声援を受け盛り上がりました。



また、同時開催された中九州ジャンボかぼちゃ大会も9回目を数え、366個（139名出品）の丹精に育てられた巨大かぼちゃが陳列されました。6部門で審査が行われ、後藤庵さん（竹田市）の125kgがジャンボかぼちゃ賞に輝きました。

遠く島根県の保存会も出演



集落の課題は、みんなの課題



なみの高原やすらぎ交流館は、地域の課題について考えようと、平成21年度都市農村交流対策事業の一環として、9月より「集落点検」に取り組みました。波野地域の集落が抱える課題や将来像を模索するために、熊本大学文学部徳野貞雄教授と研究室の学生が、小園区（35戸）、横堀区（26戸）、中江区（24戸）の3集落で、2回にわたり住民から聞き取り調査を実施しました。

来年1月には総括の報告会を開催し、波野地域の農業を支えてきた集落の姿が大きく変わってきた経過を確認し、今後の対策を検討する予定です。

熊本県法人会女性部が本市で研修



熊本県法人会連合会女性部会連絡協議会主催の会員研修会が内牧のホテルで開催され、県内から250人が参加しました。「輝かしい未来は女性の視点から」「地域の要は女性」を掲げた研修会では、小笠原邦子（同協議会副会長・阿蘇法人会女性部会長）が各法人会を代表して活動報告を行い、税への理解を求める取り組みや奉仕活動などを紹介されました。その他、阿蘇市の山内み保健師による「健康は社会の源」と題した講演や、交流会があり親睦を深めました。地元会員が花を持ち寄り歓迎の意を込め玄関や会場いっぱい飾った花アートも大変喜ばれました。